



第10回村上記念「胃と腸」賞贈呈式が行われた早期胃癌研究会6月度例会会場

## 第10回村上記念「胃と腸」賞贈呈さる

本年で第10回を数えた村上記念「胃と腸」賞は、次の論文に贈られた。

「有病率と年間罹患率（発生率）からみた胃癌の  
自然史—特に受診間隔決定のために—」

西 沢 護・下 鐘 研 悟・野本 一夫・細井 董三  
岡田 利邦・牧野 哲也・山田 耕三・志賀 俊明  
江藤 和美・古沢 英紀

（東京都がん検診センター）

「胃と腸」第19巻 第2号：201-207 頁，1984 年

くの協力者がいればこそできた。共同執筆者として名前が出ているほかにも倍以上の人々の力の結晶だ。これからも全国から若い人が奮って応募して、本賞を奪い取ってほしい」と喜びの言葉を述べた。



「胃と腸」編集委員会竹本代表より賞状を受ける西沢氏

贈呈式は6月19日夜、早期胃癌研究会6月度例会（東京・エーザイ本社ホール）で行われた。例会幹事の高木国夫氏（癌研外科）より紹介があったあと、執筆者を代表して西沢護氏（東京都がん検診センター）が登壇し、「胃と腸」編集委員会代表の竹本忠良氏（山口大・1内）より賞状、賞牌、賞金が贈呈された。続いて並木正義氏（旭川医大・3内）より選考経過が述べられ、「本論文は、長年にわたる胃集検の積み重ねから胃癌の自然史を研究したもので、受診間隔を含め胃集検のあり方についても問題を提起した貴重な仕事」と祝辞が述べられた。最後に西沢氏が、「9年前にも共同執筆者の1人として本賞を贈られたことがあるが、こういう賞はいくら年を重ねても嬉しい。今回の仕事は20年かけたもので、多



受賞の弁を述べる西沢氏

祝辞を述べる並木氏